

九州アジア観光アイランド総合特区 [指定：平成25年2月、認定：平成25年6月]

正
準

正：平成27年3月末までに計画が認定された地区／準：平成27年3月末時点では計画が認定されていない地区

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4.7 + 4.7) / 2 = 4.7$

4.7

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

| 番号 | 評価指標 | 進捗度 | 評点 |
|----|---------------------------|------|----|
| 1 | アジアを中心とした九州への入国外国人数 | 173% | 5 |
| 2 | 九州における年間観光消費額 | 92% | 4 |
| 3 | 九州への外国クルーズ客船の延べ寄港数・延べ寄港者数 | 269% | 5 |

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 2 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 4.7$

4.7

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.7

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i), ii), iii) の平均値 $(4.3 + 4.0) / 2 = 4.2$

4.2

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

■ 規制の特例措置を活用した事業

(事項)

- ・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業

(概要)

- ・中国語、韓国語、タイ語について、福岡県60名、佐賀県20名、宮崎県20名、鹿児島県20名、合計120名を募集した。
- ・全体で248名の応募があり、事前審査の結果、福岡県66名、佐賀県10名、宮崎県23名、鹿児島県34名、合計133名が受講した。
- ・九州7県で行った試験では、233名が受験し、62名(中国語48名、韓国語8名、タイ語6名)が合格した。
- ・また、特区ガイドの活用促進を図るため、スキルアップセミナーやマッチング会を開催し本取組を強化した。

(規制所管府省(国土交通省)の評価)

- ・特例措置の効果が認められる

専門家による評価の平均値

4.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

—

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.5

・特区ガイドの獲得や養成の成果を生かした展開は、他地域への再現性もあり高く評価できる。また、スキルアップセミナーやマッチング会の開催等のガイドのフォローや稼働率を上げるための取組も行われており、努力と成果がうかがえる。

・クルーズ誘致・利用に関してもきわめて順調であるが、九州各港湾への寄港促進、そのためのプロモーションの更なる展開、クルーズ船の大型化に対応した港湾整備と大型船が入った場合のツアーバス対応など受入体制の整備等に注力し、今後の訪日観光客のリピーター対策など、持続的な観光誘客につながる、九州ならではの観光コンテンツの磨き上げと編集を急ぐ必要がある。

・本特区の取組について、評価指標では把握できないため、事業の成果を適切に評価する指標を設定すべきである。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.5

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.7+4.2+4.5 \times 2) \div 4 = 4.5$

4.5

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。